

編集 環境パートナーシップちば
代表 桑波田 和子
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財)千葉県環境財団環境技術部
業務管理グループ
電話 043-246-2180
FAX 043-246-6969



だより

— つながれ ひろがれ —

「平成24年の年頭に当たって」

千葉県環境生活部環境政策課長 土屋 直毅

平成24年の新春を迎え、環境パートナーシップちばの皆様には、ますます御清祥のことと心からお喜び申し上げます。

環境パートナーシップちばは、地域の環境保全活動から環境学習、地球温暖化防止、資源循環型社会づくりなど、幅広い活動を長年実践され、会員の皆様におかれましても、環境学習アドバイザーをはじめ、本県の環境行政の推進に多大な御協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

本年度は、環境学習指導者養成講座の実施をお願いしているところですが、環境パートナーシップちばの活動から得られた貴重な経験を講座に活かしていただいております。受講者の満足度も非常に高いと聞いております。

また、例年、市民・企業・行政など様々な主体が協働して開催されるエコメッセについても、平成22年から桑波田代表に実行委員長をお務めいただき、来場者が1万人を超える盛況を見せているところですが、

特に昨年は、3月に発生した東日本大震災を踏まえ、実行委員会として東北や県内の被災地の

方々へのTシャツのチャリティー販売や房総ガス協議会との共催による「エコ・ハピカフェ千葉から考えよう！ 3.11後の私たちの暮らし」の開催など、参加者の一人として、大変意義深く永く記憶に残る行事であったと思います。



現在、震災後における放射能、廃棄物、エネルギーなど、環境をめぐる様々な課題が山積しており、国のみならず、本県においても対応を進めているところですが、その解決に当たっては、県民・企業など各方面の御理解と様々な主体間の連携・協働が不可欠であると考えています。

そのためには、「多様な主体をつなぎ、パートナーシップによる環境づくりを目指す」という環境パートナーシップちばの活躍に大いに期待するところであり、今後とも会員の皆様方の御理解と御協力をお願いする次第です。

終わりに、環境パートナーシップちばのさらなる御発展と、会員の皆様の御健勝を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

『新しい公共での私たちの役割』

代表 桑波田和子

厳しい寒さを迎えての新年となりましたが、会員の皆さまにおかれましては、天に上る竜のごとく希望を持ってお迎えになられたことと思います。

平成23年3月には、東日本大震災という未曾有の体験をしました。いまだに震災の爪痕が残り、福島原発の終止符が打てない厳しい現実を突き付けられています。

このような状況の中で、私たちのこれまでの価値観、暮らし方、人との関わりなど多くを見直し、今後に向けて新たに動いていく必要を強く感じた一年でした。環境への負荷の軽減、環境と経済が成立する社会、人と人の絆(絆)カ、温かさなど、次世代の子どもたち、生き物たちへと引き渡す大人

(社会)の責任を果したいと願います。

「つらいことを乗り越えると人は強くなる」といいますが、乗り越えた後には大きな自信と良い結果を結びと信じて、新しい年をしっかりと歩みたいと思います。

近年、新しい公共という言葉をよく耳にしますが、行政により独占的に担われてきた「公共」を、これからは市民・事業者・行政の協働により「公共」を実現していくことだそうです。

色々な思惑があると思いますが、私たち市民がこれからの社会(地域)を持続可能な社会としていくためにできることを今まで以上に率先して実行する市民力が必要です。

今年は6月20日～22日の3日間、リオデジヤネイロにおいて、「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」が開催されます。サミットの成果が期待されます。当会のモットーである、市民・企業・

行政とのパートナーシップをより確かなものとして、活動する年にしたいと思います。そこには会員皆さまのアドバイスやご支援が必要ですので、よろしくお願ひいたします。

環境学習指導者養成講座（発展コース）を受講して

NPO富里のホタル 事務局 岡本伸正

昨年11月、本講座の公募メールが縁で、私たち「NPO富里のホタル」の会員4名が受講することになりました。4人とも導入コース未受講で心配でしたが、「環境学習の経験があれば大丈夫！」とサポーターに太鼓判を押されました。班に与えられたアクティビティ名は「誰が川を汚したの」。サポーターから「一番やりやすいですよ」と癒やされたものの、まだ先が見えていませんでした。

班の構成上「誰が印旛沼を汚したの」に決まり、シラバスとシナリオ作成に取り掛かりました。アクティビティ演習を富里市内で行うことになり、初回はサポーター2名をお呼びしてお手本を示していただきました。ところが、2回目の演習で制限時間の30分に収まらないことが分かり、再検討する羽目に。役割の組合せやブラカードの使用、容器の色分け等の工夫で短くできると分かり、正月休みを返上してその準備に追われました。

第3日目、他班の「宇宙船地球号」などの演習を体験できたことは大変参考になりましたが、その場で点数札を掲げたり、批評する手法は、私の人生の中でも余り経験がなく、互いにプレッシャーを感じる一瞬でもありました。第4日目の

午後、本番を迎えた私たちは、緊張した面持ちで舞台に立ち、チーム力を結集して熱演しました。そして、目の前に高く挙げられたカラフルな点数札になぜか納得していました。受講生の批評、自己評価そして講師の講評。ここで得た忌憚(かしこ)のない評価を糧に、環境学習指導者としての力量を更に深めたいと思いました。

私たちは、昨年の地元小学校3年生の自然観察会で案内役をする機会がありました。今年も要請があれば、本講座で得たことを実践で活かせればと考えています。スタッフの皆さんありがとうございました！



環境学習指導者養成講座（発展コース）を受講して

望月 靖子

「環境学習指導者」と聞いて思い浮かべたのは、子どもたちの前で一生懸命説明をする大人像でした。しかし、この講座を受けてそのイメージは変わりました。それは、大人に対しても環境学習が必要だと感じたからでした。講座第2回目の谷津干潟見学で干潟に放り込まれた私たちは、はしゃぎ、楽しみ、発見し、学習しました。大人にも始めてのことや知らないことがたくさんあります。まずは自ら体験し、学び、確信しなければ、子どもたちに伝えることは難しいと感じました。

受講者をグループ分けして行われたアクティビティでは、出会ったばかりの人たちと1つのことを成し遂げることに困惑や葛藤もありましたが、メールのやり取りや仕事帰りに集合し、なんとか仕上げることができました。シナリオを作るに当たり「自分ならどうしたら楽しいか？興味湧く

か？」ということを一に考えました。自分が楽しめないアクティビティならやらない方がよいと思ったからです。



各グループに対するクリティークでは多くの発見がありました。自分の目線、受け手の目線と見方を変えることで何通りものやり方が出てきます。より良いアクティビティにするために、受講者みんなで体験し合い、話し合い、評価し合い、学ぶことが出来ました。場と心を和ませるアイスブレイク、受け手の立場を考えた興味を抱かせる道具

や話し方、資料の使い方など、色々なことを身につけなければと思いました。

まだまだ知らないことがたくさんあります。臆せず色々な体験をし、楽しみ、学んでいきたいと思っています。最後にこの機会を与えて下さった方々に感謝いたします。ありがとうございました。

環境学習指導技能向上講座

「ファシリテーション実践」講座を受講して

谷口 路代

ファシリテーションという言葉は最近耳にすることがありますが、ファシリテーションを日本語で表わすことは、たいへん難しいようです。

今回「ファシリテーション実践」を受講させていただいたのは、昨年受講した方からの勧めもありましたが、なにより自分がファシリテーションの意味がわからず、でもこれから環境学習や会議を進めていくためにはきっと必要なことなのだろうと漠然と感じていたことがきっかけでした。

一般的に、講座や会議の場合は、講師や司会者が参加者に向けて情報や意見をほぼ一方的になげかけることで成立していますが、ファシリテーションにおいては、参加者（学習者）から指導者へまたは参加者（学習者）同士が意見を出すことが重要で、ファシリテーターと呼ばれる進行役は、参加者へ質問する、参加者の話をよく聞くという作業が大切になってきます。私はそれを理解するために、ファシリテーターの役割は、昔、その地域でもめ事が起こったとき、仲介したり、みんなの意見を聞いてまとめる長(おさ)のようなイメージを持ちました。

ファシリテーションを始める時に、ファシリテーターは、質問はするどくどのような問いかけをしたらたくさん発言してもらえるかを常に考え、そのためには問いかけ方をたくさん用意しておくことが必要であること、自分の思い込みをはずし、参加者にとってその会議のテーマがどのくらいなじみがあるかを確認し共有すること、ファシリテーターは必ずしもそのテーマにおける利害関係者でなくてもよいなどポイントとなる話をたくさん聞くことができました。

講師の青木先生の分かりやすく、人を引き付ける話し方をお聞きして、ファシリテーターは人間的な魅力が必要であることを痛感しています。

実際にファシリテーションを使った講座や会議を開催しすすめていくことは、ファシリテーターの力によるところが大きいと思いますが、参加者みんなの意見を聞くことができる、少数意見をきちんと反映させる、発言力のある人だけの意見に偏らないなど多くのメリットがあることが分かり、機会をとらえて挑戦してみたいと思いました。

環境学習技能向上講座に参加してみました！

加藤 賢三

今回、はじめて、このような環境学習講座を受講する機会がありましたので、感想を記します。

1回目は、環境学習指導のための話し方、2回目は、ファシリテーションの実践、3回目は、情報の活用と学校での学習、4回目は、持続可能な社会の構築のために、です。

環境学習・環境教育の実践を行っている者にとって、分かりやすい話し方や印象に残るような話し方を会得していることが、特に大切なのだと改めてわかりました。次に、話し合いの場などにおいて、その場を活性化する、あるいは、からまった糸をほぐすような、ファシリテーションは、思

いの共有、共感と双方向の対話に必須なものです。

環境学習において、環境に関する情報をどのように得て活用するのかが最大の課題です。必要な情報を的確に読み解く力をつけること、そして企業と学校と地域をつなぐNPOの役割などについての事例紹介と苦労話がありました。

本事業は、環境パートナーシップちばが県から受託して行ったもので、毎回の講座の中で、受講者と講師、講座事務局、県との良い連携と協働が行われていることが受講生として参加して、再認識しました。

第51回エコサロン

今回のエコサロンは、環境学習指導者養成講座の受講生や、当会の会員から、今後活動するための問題点、環境に関する日ごろの思いを形にするために開催しました。サロンでの応援メッセージや活動のアドバイスなどのやり取りを通して、今後の活動に活かされる日が近いと感じました。参加者の声を以下に記します。

環境指導者養成講座（導入コース）修了生 小林 悦子

環境活動を自治会レベルで取り組めば、確実な力になると考えている。多くの人に取り組めるテーマとして「家庭でできる温暖化防止活動」を考えた。しかし、“具体的内容”を探せていない。エコサロンで“家庭でできること”を教えてくださいました。S氏が「みえる化がいいかな」と“ちばしエコカレンダー2012”を示され、“環境家計簿”

を教えてくださいました。私も同じものを持っていたが、見る目、考える頭を持ち合わせていないため、気付かなかったのだ。経験豊富な先人のアドバイスがすばらしく、ありがたいことを実感した。市に電話して、カレンダー30部をもらうことにした。勉強して、暖かくなったころ、近所に声をかけて“集まり”を立ち上げたい。

環境パートナーシップちば 吉田 陞

私は日ごろ、医療廃棄物処理を気にしている。今、環境問題で特に今クローズアップされているのは廃棄物処理問題ではないかと思う。一番の難関問題は昨年3月11日に発生した東北大震災で東電の原子炉破壊による放射性物質の拡散によって汚染されたガレキの処理問題がある。

至近の問題では千葉県内から東北の県に埋め立てのため運ばれた焼却済み廃棄物が放射能汚染から返送されている。千葉市でも焼却炉の破損から可燃廃棄物の収集が週3回から2回に減っている。

また、都内のある市では都外の公共処理施設に

依頼していたが拒否され市長が辞職に至っている。このように廃棄物処理問題は各地で難問題として浮かび上がっている。廃棄物の処理及び清掃に関する法律（略称：廃棄物処理法）でも解決困難な廃棄物をいかにし減量するかが重要な事項となっていることである。

家庭からや産業廃棄物を減らしていくのが国民の大きな責任と課題であると思う。身近なところからゴミを減らす3R運動をより発展させてゆいよう心掛けていきたいと思っている。

環境パートナーシップちば 若月 聡

12月のエコサロンで、こんなお話をさせていただきました。私は今、千葉県の「環境学習コーディネーター」として、2012年2月・発表をその予定に、実習に取り組んでいます。その中で、環境学習プログラムの協同開発・実施等を相談させていただくため、県や市、大学・学校等の機関にこちらから足を運ぶ機会があります。

この活動の中で、こういった話を成立させるのは、とても工夫がいることだと感じました。「取り組みの必要を認める」という段階からさらに発展させて、現場にてどう活動を展開するか、ということをして自在に相談できるようになるには、相当の交流蓄積とその中でのお互いの慣れ・信頼が形成されないと、難しいことだと感じました。

環境パートナーシップちば 斎藤 清

初めまして、この度環境パートナーシップちばに入れていただき活動することに成りました。私は今船橋に住んでいることから三番瀬を中心に東京湾を20年前の環境に復活するため「三番瀬をラムサール条約登録を実現する会」「環境を考える市民の会」等5団体ほど活動している会に参加し応援しています。

今年は各団体の連携を勧めてみたいと考えていましたが、1月15日NHKスペシャル番組で福島原発のセシウムが江戸川ホットスポットにて1623ベクレル/kgあることが分かり、東京湾を汚染させることは必至となり、喫驚しています。東京湾再生も仕切り直しです。

「環境ひろば千葉」がOPEN!

環境パートナーシップちばは、当会員がいつでも自由に入出し情報交換を行い、またそれが会員間の交流活動にまで発展するような仮想の「ひろば」を作りました。それが、12月9日に正式オープンしたウェブサイトの「環境ひろば千葉」です。<http://kanpachiba.com/hiroba/>

これまで、環境パートナーシップちばの情報活動は、人的交流による情報収集に加え、専用ホームページ*と「環パだより」などによる一方向の情報提供が主でした。

* <http://kanpachiba.com/>

このような情報提供法では、近年の社会全般における情報環境整備の進展に即していないこと、当会員間の連携や交流に必要な情報提供が十分にできないことが懸念されたため、このウェブサイト立ち上げました。

実際の利用方法は、まず、会員（新規会員も含む）が投稿権を得るため、会員名（ハンドルネームも可）とパスワードを取得します。次に、「投稿の入口」から入って、所定のルールに従いイベント情報等の記事やブログを投稿します。また、この投稿方法をご理解いただくために、今後必要に応じ随時研修会を実施します。

より広く情報を集めあるいは伝えたい方、また、より多くの人と交流したい方は、ぜひ当サイトをご活用ください。

なお、このサイトは個人や団体間の情報交流が主目的ですが、自前のホームページを持たない団体さんが、このサイトをホームページとして活用することもできます。

詳細なご利用方法は、別紙の1枚紙を同封しますので、そちらをご覧ください。（広報部）

地域づくりのための寄付文化をつくる「ぱあてい」参加報告

斎藤 清

千葉県主催の千葉県県民活動促進事業「寄付促進キャンペーン事業」で市民、市民活動団体、企業の出会い広場に参加しました。今回寄付金を募集する13団体が活動内容をアピールし寄付の応援していただく企業を募集する場です。募集の寄付金額は45万円から2千万円と幅が広く、寄付をする企業側も喫驚していたようです。

各企業の発表前に日本マイクロソフト(株)社長室企業市民活動推進部、松原朋子氏の講演「企業とNPOとの連携で新しい価値をつくろう」があり内容はとても新しい考え方で参考になりました。その内容をかいつまんで報告します。

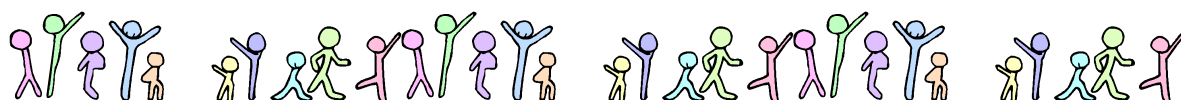
企業の社会的責任、すなわちCSR

(Corporate Social Responsibility) 活動は経営資源を使ってコミュニティに貢献してきたが、「慈善活動」になる場合が多く、経済的責任も同時に果たさなければならない企業の中では投資を継続することが難しい。また、その活動により企業の評価を良くするためだけでは、本質的な企業の競争力への改善にはならない等の課題が見えてきた。

そこで、この課題を乗り越えるため、CSV (Creating Shared Value)「共通価値の創造」を目的に活動すれば持続的な活動が実現できる。共通の価値とは「コストと比較した経済的便益と社会的便益」「企業と地域社会が協働で創出した価値」のことで、特に企業は予算内のCSR活動でなく、社会状況に応じた企業の予算全体を再編成することです。この総合的関係を実現するために、プロセスや手続きは複雑なマネジメントを要求され、それぞれパートナーの価値や行動が相互に影響することとなります。この活動を進めるために4つのフェーズがあります。

フェーズ1：協働事業の課題に応じるための準備
フェーズ2：NPOと企業との戦略的協働の企画
フェーズ3：企業との戦略的協働を開発
フェーズ4：企業との戦略的協働を更新
以上をこの協働について両者合意の上で進めることが必要です。

以上は現在活動団体に対し、かなり高度な手法ですが、協働で活動することにより、企業からの教育指導もあり、地域団体活動のレベルアップになることが期待されます。



「低炭素地域づくりサミット 2011in いちかわ」開催 — 地球温暖化対策地域協議会サミット —

暮れも押し迫った12月18日、市川市の千葉商科大学で標記サミットに続き14時～17時まで約200名の参加でシンポジウムが行われました。

サミットには、次の記述協議会から会の代表とオブザーバーとして事務局を担当する各市役所から参加がありました。市川市地球温暖化対策推進協議会会長である西岡 秀三 氏の「わくわくした気持ちでこのサミットを迎えました」という開会挨拶で午前中の会議は始まりました。

協議会の事務局を市が受け持ち、市民（市民団体）・事業者・行政でパートナーシップを組んで事業計画を検討し実行を進めているところや、横浜市のように市民団体が協議会を立ち上げ市がバックアップし事業まで担っているところもあるな

ど地域によって違いがありました。サミットをどのように継続して行くかについての結論は出せんでしたが、午後のシンポジウムで採択する共同宣言を検討し終わりました。

シンポジウムは、全国地球温暖化防止活動センター菊井 順一氏の「地域で取り組む地球温暖化対策」の基調講演に始まり、それぞれの協議会の主とした活動、葛飾区（打ち水）熊谷市（再生可能エネルギー資源調査）さいたま市（市民向け見学会）船橋市（緑のカーテン）横須賀市（緑のカーテン）横浜市（LED電球の普及）市川市（講演会）の報告があり、会場からの質疑応答が行われ、その後、西岡秀三氏の共同宣言発表を満場の拍手で採択して終了いたしました。

（文責：大西 優子）

＜共同宣言＞

私たち地球温暖化対策地域協議会は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、住民、事業者、環境活動団体、行政等が連携して地域に根差した地球温暖化対策に取り組んできました。（中略）そして、次のことをともに確認し努力していくことをここに宣言します。

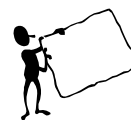
- 1、地球温暖化対策地域協議会間の交流を拡げ、取り組みを全国に発信する。
- 2、地域で取り組んでいる地球温暖化対策の知識・知恵の共有を進める。
- 3、地域の地球温暖化対策の課題の共有化と解決策を検討し、それぞれが行動する。

平成23年12月18日

葛飾区地球温暖化対策地域協議会・熊谷市地球温暖化対策地域推進協議会・さいたま市地球温暖化対策地域協議会・千葉市地球温暖化対策地域協議会・船橋市地球温暖化対策地域協議会・横須賀市地球温暖化対策地域協議会・横浜市地球温暖化対策推進協議会・市川市地球温暖化対策推進協議会



県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 8 —
おききました！ この人・この団体
吉田 謙二氏



所属団体：ごみゼロネットちば21、エコメッセ in ちば実行委員会、エコマインドの会等

環境保全活動等市民活動のメンバーには、退職後から環境、福祉、地域等に関心を持つ方が多い中、現役の働き盛りの活動家はなかなか増えない状況です。このような中、吉田さんは、小学生、中学生のお父さんとして、地域の通学路でゴミ拾いを長年継続されていると知り、きっかけや活動などについて、ご本人にお聞きしました。

「私にとっての環境問題は、見渡せる程度、半径数十mの延長です。」と吉田さん。

「普段、自宅周りのゴミ拾いや雑草取りなどをしてしていると、挨拶をするきっかけにもなりますし、知り合いも増えるし“ありがとう”と感謝までされるのですから、やらない手はないなあ。」とのこと。

16年前に引っ越してきてから近所のゴミ拾いを始めたのは、大工だった祖父の影響だそうです。

そこで、大工だった祖父のことについては次のように話されました。

「仕事場では、現場が汚い職人はたいてい腕が悪い、仕舞いが良いとお客の気分も周りに住む人も気分が良いんだよ」と云って、建築現場はいつもきれいにしていました。朝、10分ほど歩いて海まで行けば、砂浜のゴミを拾っていましたし、鴨川駅から程近い自宅前の踏切は、祖母も手伝いながら40年以上も清掃活動をしていました。鴨川市は海水浴やサーフィンなど観光の街ですし、祭りの実行委員や神社の総代も務めた祖父は、自分の住む街をいつもきれいにしていたかっただけでしょう。

今年で7年目となる御成街道のゴミ拾いを始めたのは、通学路を歩いたことがきっかけです。長男の小学校就学前、通学の練習にと一緒に歩いて学校まで向かった御成街道。歩道や路肩は荒れ放題のポイ捨てゴミだらけ。普段は車で移動するので気づかなかったのですが、ゆっくり歩いてみると、タバコの吸殻や飲料の容器、お菓子の包装紙などが目立ちます。

こんな汚い通学路を毎日登校する子ども達に、先生を始め大人たちがいくら道徳や環境を語ったところで、これでは説得力が無いなあと思い、通学路くらいは一人でもきれいにできるだろうと始めました。

最初は50mも進めば45Lのゴミ袋は一杯、学校までの往復3.5kmがある程度きれいになってきたのは4ヶ月目の夏休みの頃。それも、今

では往復3.5kmで30Lのゴミ袋に半分かさこいらですから、随分きれいになったものです。後は維持できるように協力者を少しずつ増やしていけると良いなと思っています。

近所の公園でラジオ体操をしている自治会のシニアグループは、昨年から週に1回、近所のポイ捨てゴミ拾いを始めてくれました。

御成街道以外でも、自宅の隣三軒くらいまで掃除してくれる人が随分増えてきたのは嬉しい限りです。

自分の周りで同じような活動をしている人がいるのかな？と。

活動のアンテナを広げるためにエコマインドの会やGONETなどのNPOに加入し、消防団、耕作放棄地活用応援団、小学校の評議員等、幅広くご活躍です。

若葉 GONET :

http://gonet21.com/wakaba/blog/?page_id=2

(文責：広報部)

ごみ→



運営委員会報告

12月運営委員会

日時 12月13日(火)
場所 千葉市民活動センター

【報告】

- ・市町村とNPOとの連携促進事業「意見交換会」
- ・環境学習指導者養成講座(発展コース)開始
- ・環境学習指導技能向上講座
- ・「環境ひろば千葉」研修会

【協議】

- ・だより 83号
- ・平成23年度環境学習指導者養成講座
- ・「環境ひろば千葉」研修会
- ・環境ひろば千葉の登録ルール等について
- ・企業・NPOによるパートナーシップ事業「環境安全型農業の啓発活動の協働実施」
- ・12月エコサロン開催
- ・市町村とNPOとの連携促進事業「意見交換会」について
- ・エコプロダクツ

1月運営委員会

日時 1月24日(火)
場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・環境学習指導者養成講座(発展コース)について
- ・環境学習指導技能向上講座について

【協議】

- ・だより83号確認と84号企画
- ・「環境安全型農業の啓発活動の協働実施」について
- ・3月エコサロン開催について
- ・千葉市エコ体験スクールについて
- ・市町村とNPOとの連携促進事業の進め方について
- ・2012年の事業部活動に「エコメッセチーム」「環境学習チーム」をおくことの検討

お知らせ

企業・NPOによるパートナーシップ事業 (千葉県県民交流・文化課)

テーマ:「ナチュラルシーズ見学会」
～種から学ぼう! 肥料もいらない自然農法～
日時: 2月21日(火) 集合9:30 解散15:30
場所: 成田市三里塚光ヶ丘1-454
(有)ナチュラルシードネットワーク
参加費: 500円(資料・保険代)
募集人数: 20名
主催: 環境パートナーシップちば
(有)ナチュラルシードネットワーク
申し込み: FAX: 043-278-0980(牧内)
携帯: 090-7171-8354(牧内)

廃棄物の適正処理を推進する為のシンポジウム

テーマ: 知ろう、考えよう!
私たちの生活と産業廃棄物
日時: 2月6日(月) 13時～16時30分
会場: 千葉市ビジネス支援センター
(きぼーる) 13階会議室
定員: 150名
参加費: 無料
主催: 千葉県
申し込み: 千葉県環境生活部 資源循環推進課
資源循環企画室 Tel: 043-223-2645
e-mail: e-sigen@mz.pref.chiba.lg.jp

再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先: 千葉県環境財団 環境技術部
業務管理グループ気付
TEL: 043-246-2180 FAX 043-246-6969
会費納入先: 環境パートナーシップちば
郵便振替口座 00160-9-401872

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		